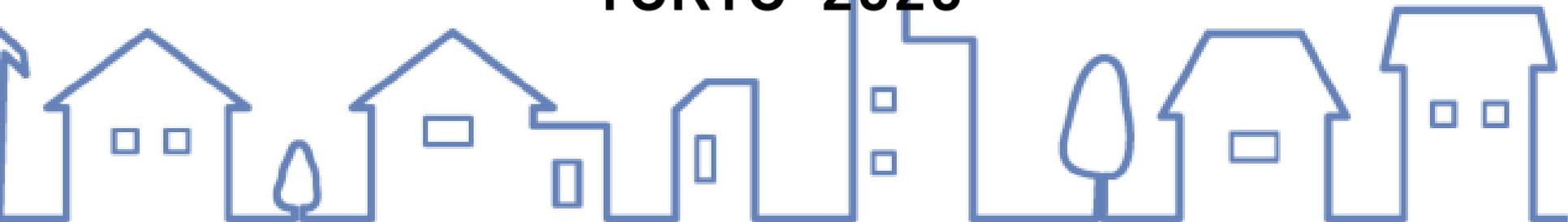


オリンピック・パラリンピック を契機とした効果活用

プロジェクト



TOKYO 2020



目次

- **オリンピック・パラリンピックについて**
- **政策研究所の取組**
- **政策提言**
(オリンピック・パラリンピックにむけて)

オリンピック・パラリンピックとは

- ・ 4年に1度開催されるスポーツと文化の祭典
- ・ 究極の目的 **スポーツを通じた人間育成と世界平和**

2016年(リオ)	オリンピック	パラリンピック
参加国(国・地域)	206	159
参加人員(人)	11,000	4,342
競技数	28競技306種目	22競技528種目

オリンピック・パラリンピックとは

2020年東京で開催！

Q
波及効果を
最大限活かす
には？

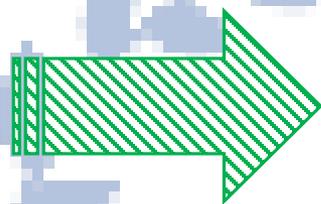
A

町に事前キャンプ
を誘致する！



事前キャンプとは

時差、気候への順応



コンディションの調整
パフォーマンスの維持・向上

各国選手団が**任意**で実施

- ①一つの国の選手団でまとまって実施
- ②競技団体や種目ごとに実施
- ③開催国以外で実施、大会直前に入国

国内において**200**を超える国・団体が実施すると予想

事前キャンプ ～期待できる効果～

コミュニティ意識の醸成

町ぐるみのオモテナシ
による一体感

経済効果

スポーツ関連施設活用
スポーツ振興イベントへの集客

シティプロモーション
知名度の向上
町のアピール

グローバル社会への意識

外国の文化・言語を学ぶ
可能性を広げる

スポーツ文化の醸成

心身の健康増進
活気あふれる町

事前キャンプ 課題と視点

①練習施設

課題

町立総合体育館、運動公園、テニスコート

👉 I F 基準を満たさない。

👉 住民利用との調整必要

視点

淑徳大学や大崎電気工業など、練習施設と練習相手をもつ大学、企業が町内にあるという**強み**を生かした取組も必要

事前キャンプ 課題と視点

②誘致費用

課題

自治体が費用負担をすること

= (国や選手団から) 選ばれる基準の一つ

👉 三芳町 = 財政が厳しい



視点

選手団が本当に求めている物を見極め、
少ない費用でも充実させることが必要

事前キャンプ 課題と視点

③宿泊施設

課題

不安やストレスを感じさせない環境が必要
(練習施設に近接する、外国語の対応、
食事、(国によって)宗教への対応)

 三芳町 = **宿泊施設がない**

視点

新たな宿泊施設の確保、
近隣市町村との協力体制が必要

事前キャンプ 課題と視点

④大会までの機運醸成

積極的なスポーツ交流、文化交流

課題

👉一過性ではなく継続して盛り上げてい

く



視点

仕組みづくりが必要

子どもたちが**ホンモノのスポーツや**
海外の文化に触れる機会づく

り

事前キャンプ 課題と視点

⑤レガシーの創出

課題

次世代に残していく「コト」

👉 三芳町 = 有形の公共財

を残していくことは難しい



視点

レガシー創出のための事業や政策を行い、
次世代に引き継いでいくことが必要

政策研究所の取組

～誘致国～

マレーシア



平成26年から中学生派遣

11競技32名出場

- ・バドミントン以外の競技を町内施設で実施することが困難
- ・事前キャンプの方向性が示されていない

ガボン共和国



アフリカ大陸

政策研究所研究員のつながり

4種目6名出場

- ・他の自治体からの問い合わせ多数
- ・事前合宿の方向性が決まっていない

政策研究所の取組 ～誘致競技～

柔道

淑徳大学女子柔道部

- ・オランダの柔道チームの受け入れ実績
- ・監督の世界各国の柔道関係者との繋がり
- ・練習施設、練習相手としても十分

事前キャンプについての各国の情報収集
誘致可能性や費用負担のアドバイス

引き続き
連携し検討

淑徳大学、監督の協力体制 有り



政策研究所の取組 ～パラリンピック競技～

パラ 競技

日本の技術力 と なじみの“なさ”を利用

- ・競技の用具に日本の技術も多く使われている
⇒関連企業が町内にあればアピールになる
- ・パラリンピック競技は馴染みのない競技が多い
⇒体験会などで機運醸成を図る



関連技術を持つ企業はない・バリアフリー対応の宿泊施設



イベントの検討へ

政策研究所の取組 ～宿泊施設～

空き物件
の
利活用

社宅や寮の利活用



郵政宿舎

- ・規模が大きすぎる
- ・活用方法未定



時事通信社
三芳寮

- ・売却済み



見学

伊ワキ
三芳寮

- ・活用する意向が
なく、前向きな
回答

政策研究所の取組 ～宿泊施設～

空き物件
の
利活用

イワキ三芳寮

昭和40年代の建築物



売却

- ・耐震、アスベスト未調査
- ・雨漏り、ゆがみ
- ・水回りの整備
- ・第二種低層住居専用地域⇒

資金

厳しい
用途制限



2020年東京オリパラ誘致に関する研究 報告提案（概要）

基本的な考え方

- 大会期間中の地域一体となった盛り上げはもちろん、オリパラ期間中の「一過性の取組」ではなく、オリパラ後も残る次世代への「レガシー」づくりを目指す。
- 地域や民間事業者が主体的に取り組む上での「東京オリパラ三芳町イベント」を通じ、レガシーへの手がかりを提供する。

期待される効果

- オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致における経済効果、教育効果
- 事前合宿誘致をきっかけとしたコミュニティ意識の醸成
- 事前合宿誘致の波及効果を最大限活かすためのシティプロモーション

「東京に一番近い町」として一体的に連携した取組みをすることで、
ムーブメントを呼び起こし、国内外に認知される「三芳町レガシー」の構築を目指す

1. スポーツを通じた ひとづくり・まちづくり ～元気があるまちのコミュニティづくり～

テーマ1 事前キャンプ地誘致と教育的 取組における人材育成

- ・淑徳大学との連携
- ・誘致国受け入れ体制の構築と機運醸成
- ・人材育成（教育的取組）

テーマ2 障がい者スポーツの活性化とバ リアフリーなひと・まちづくり

- ・アスリートとの交流イベント
- ・バリアフリーマップ作成等

テーマ3 スポーツ人口拡大による活気 あるまちづくり

- ・参加型プログラムを各地で展開

2. シティプロモーションに よる町の魅力発信 ～東京オリパラ三芳町イベントを通じ～

テーマ1 魅力の発信

- ・各種町のイベントをオリパラを介しPR
- ・商店等との連携

テーマ2 世界農業遺産認定に向けた PR

- ・関連イベント等でのPR

テーマ3 スポーツ・文化芸術の参 加型プログラムを通じた交流人口の 増加

- ・参加型プログラムを各地で展開等
- ・県外からも人を呼び込むしかけづくり

3. 2020年を契機とした しごとづくり ～東京オリパラ三芳町イベントに照準～

テーマ1 スポーツ振興事業

- ・施設利用収益、スポーツ機器開発事業
- ・スポーツイベント等の開催

テーマ2 三芳町農業の産業高度化で 「しごと」を創る

- ・三芳町版農業IoT導入による飲食業等への波及

テーマ3 高齢者・障害者がいきいき と働ける仕事環境づくり

- ・ボランティア活動と高い雇用による働く意欲の向上

オリンピック・パラリンピックに向けて

スポーツを通じたひとづくり・まちづくり
～事前キャンプ地誘致と教育的取組における人材育成～

学ぶ

競技ルール
競技用具
協議会運営の仕組み
選手の支援体制

誘致国受入態勢の構築と機運醸成

体験

運営企画
運営体験
トレーナー体験
健康・栄養管理体験

淑徳大学と
の連携によ
るキャンプ
地誘致

連携

大学や民間企業
定期的・継続的なイベントプログラム

連携

人材育成・トップスポーツを観る、知る

オリンピック・パラリンピックに向けて

スポーツを通じたひとづくり・まちづくり
～障がい者スポーツの活性化とバリアフリーなひと・まちづくり～

車椅子バスケットボール体験会
パラリンピアンとの交流会

あい
サポート
運動

町のバリアフリー調査
バリアフリーマップ作成

障がい者スポーツの周知
障がい者への理解

バリアフリーを学ぶ
バリアフリーへの理解

思いやりのあるひと

弱者に優しいまち

オリンピック・パラリンピックに向けて

スポーツを通じたひとづくり・まちづくり
～スポーツ人口拡大による活気あるまちづくり～

楽しみながらスポーツ、運動をする環境
(競技体験型イベントやウォークラリーなど)

オリンピックによる生活習慣やライフバランスの講習会の開催

生活の見直し
健康を意識した生活



スポーツへの興味や機運醸成



体力の向上
高齢者の医療費削減
心の健康



健康長寿
事業との
連携



心身ともに健康な
活気あるまち

オリンピック・パラリンピックに向けて

シティプロモーションによるまちの魅力発信

～魅力の発信～

「都会でもない、田舎でもない、トカイナカの町」

発信力

オリンピック・
パラリンピック
イベント

+

都会では味
わうことので
きない魅力

国内・海外

住み続けたい町・住んでみたい町へ

オリンピック・パラリンピックに向けて

シティプロモーションによるまちの魅力発信

～世界農業遺産認定に向けたPR～



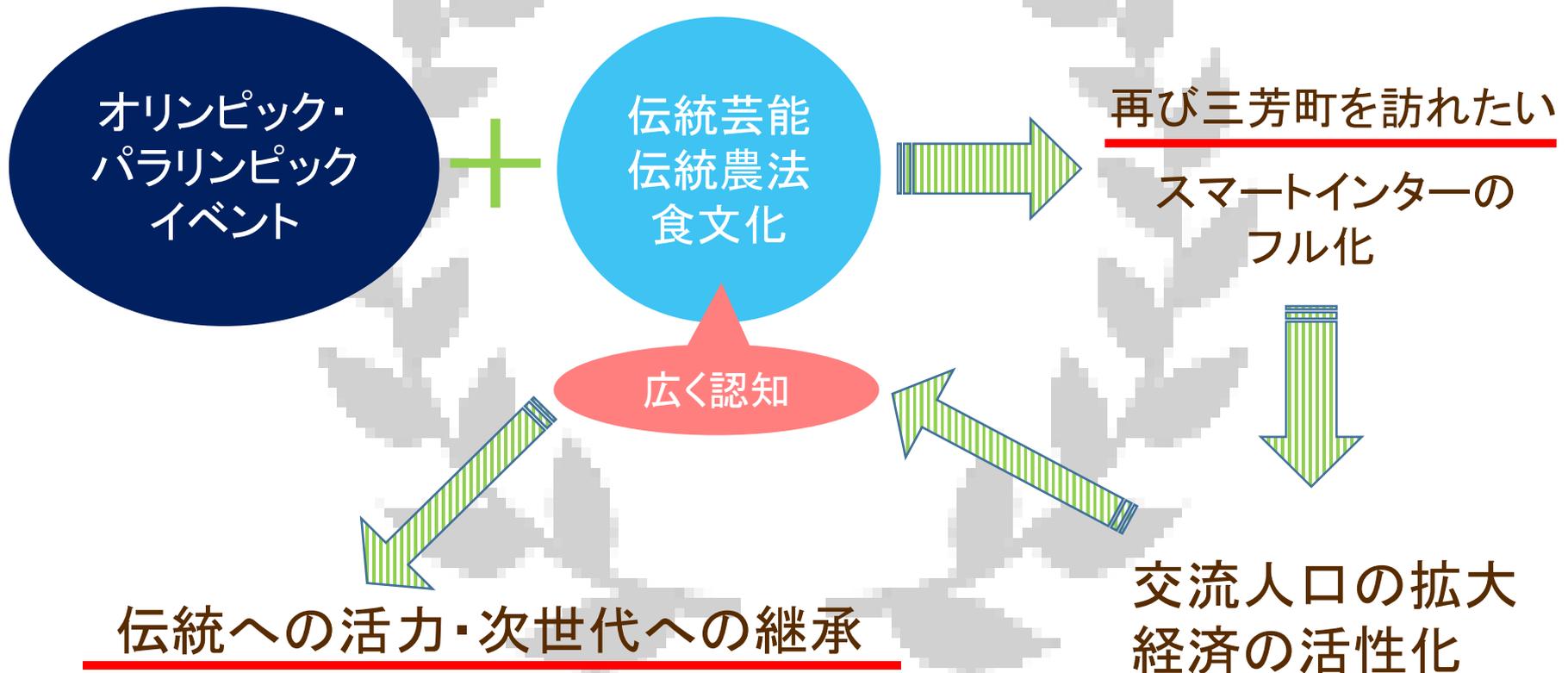
外国人が求めるもの

「買い物」などの“モノ”から

「自然・景勝地観光」や「自然体験ツアー・農漁村体験」を含む“コト”に変化

オリンピック・パラリンピックに向けて

シティプロモーションによるまちの魅力発信
～スポーツ・文化芸術の参加型プログラムを通じた交流人口の増加～



オリンピック・パラリンピックに向けて

2020年を契機とした仕事づくり ～スポーツ振興事業～

占有期間 ⇒ 施設利用収益はむしろ減少…

施設利用収益

しかし

大分県中津江村

注目されたことによりワールドカップ後の利用が急増！
⇒トップアスリートが利用することで収益も見込める

事前キャンプに関するイベント(5日間)の試算

イベントによる 経済波及効果

選手	のべ参加者数	宿泊を伴う参加者
20名	1100名	100名

1千万円



宿泊施設がない…

民泊の検討

パラリンピック競技への認識 ⇒ 町内企業によるスポーツ機器開発事業の隆盛

食と農を取り戻す(支える)して仕事を創る

三芳町版

トカイナカ

食

と

農

若い人が
参画する
スマート
農業

三芳町で取
れた「富の
川越いも」や
「美味しい野
菜を使った
料理

付加価値
サービス
→生産物の
価値を高める

農業IoT
→人口が増
えなくても生
産性を高め
る

三芳フルICの
活用
→物流拠点増
加、効率化

食と農を取り戻すプラットフォーム

オリンピック・パラリンピックに向けて

2020年を契機とした仕事づくり
～三芳町農業の産業高度化で「しごと」を創る～

農業従事者の高齢化、混在化 ⇒ 伝統に新たな視点を注入する



オリンピック・パラリンピックに向けて

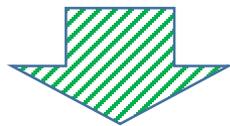
2020年を契機とした仕事づくり
～高齢者・障がい者がいきいきと働ける仕事環境づくり～

昼夜間人口比率 ⇒ 県内1位

高齢者(65歳以上)就業率 ⇒ 22.5%(県内平均23.6%)

オリンピック・パラリンピックでは、全国的に数百万人規模の
ボランティアを育成する計画

ボランティア活動などの様々な経験を通じて、働く意欲を向上させる



高齢者・障がい者も活用できる人材活用の仕組みづくり

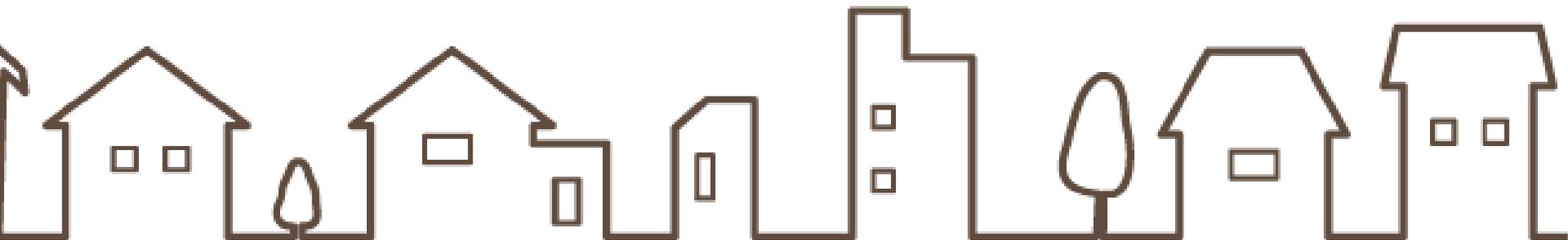
まとめ

東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地を誘致し、その波及効果をうまく活用すれば、町も住民も大きく成長できる。

東京オリンピック・パラリンピックはもちろん、“まちづくり”にも関心を持てるような“ひとづくり”のためにも

「三芳町レガシー」

を構築し、次世代に引き継いでいけるような取組が必要である。



オリンピック・パラリンピック を契機とした効果活用 プロジェクト



ご清聴ありがとうございました。